

2008 年度

科目名 ジェンダー論（総合講座）B	対象学科・学年 文学部全学科3回生 人間社3回生	担当者 日合 あかね
授業テーマ 性差にかかわる偏見・差別の現状と構造を見つめる。		
授業の概要と目標 この授業は、ジェンダー論が指摘してきた社会的な問題についての知識を深めるとともに、現在、女性やマイノリティが置かれている状況について、特にセクシュアリティに焦点をあてつつ、その原因（相違点・共通点）を考えることをねらいとする。		
評価方法 学期末レポート 授業内アンケート		
テキスト 適宜指示する。	著者	出版社
参考書 適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. フェミニズムとジェンダーの概念 「フェミニズム」と一言で言っても、そこには様々な主義主張が存在する。ここでは、フェミニズムの歴史を概観し、いくつかの代表的な理論を紹介する。 2. フェミニズムとジェンダーの概念（その2） フェミニズムの議論から発展してきたジェンダーとは、そもそもどのような概念であるのか。生物学的性差であるセックスとの対比によって、ジェンダーはどのように機能するのかを考察する。 3. 性的自由とは何か ポルノグラフィを取り上げ、フェミニズムからの批判と擁護の議論を紹介する。 4. 性的自由とは何か（その2） 前回の続き。 「女性のマゾヒズム」についてのさまざまな定義づけの歴史を概観し、それを踏まえたうえで、性的自由はどのようなものであるか（あるべきか）を考える。 5. 結婚・恋愛とは 結婚・恋愛とはどのようなものだろうか。また、何のためにするのだろうか。 結婚や恋愛において当然視されてきたことを問い直すことによって、そこに潜むジェンダーの問題を指摘する。 6. 結婚・恋愛とは（その2）——憲法24条について 憲法24条についての議論を紹介する。 同性パートナーシップの問題や夫婦別姓、子どもの養育の問題との関連において、憲法24条について議論する。 7. ジェンダーフリーは可能か 昨今、ジェンダーフリーという考え方に対しバックラッシュと呼ばれる現象が起きている。 ここでは、ジェンダーフリーが実際にはどのようなことを意味しているのかを考察し、ジェンダーフリーの意義とその問題点について、具体例をあげて議論する。 8. ジェンダーフリーは可能か（その2） 前回の続き。 前回で紹介した具体例をもとに、「男」「女」というジェンダーは本当になくすべきなのか、なくすことができるのか、ということ、各自考えてもらい、議論する。		